

ヘルスジョガー HJ-80

要保存



この度はヘルスジョガーをお買い上げ頂きましてありがとうございます。

安全に正しくお使いしていただく為、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

本書はいつも手元においてご使用ください。

●設置場所は水平な床の上に置き十分なスペースを取ってください。

もくじ

- ◆ 表紙 P1
- ◆ もくじ P2
- ◆ 安全なご使用のために P3
- ◆ 各部の名称 P4
- ◆ 小物部品リスト P5
- ◆ 組立方法 P6～P11
- ◆ コンピューター操作方法 P12
- ◆ ご使用前の注意 P13
- ◆ 走行ベルトの調整方法 P14～P17
- ◆ メンテナンス P18
- ◆ トラブルシューティング P19～P22
- ◆ 見取り図 P23
- ◆ パーツ名称 P24～P25
- ◆ 仕様書 P26
- ◆ 保証書 P27

安全なご使用のために

安全性について

この度は本商品をお求めいただき、誠に有難うございます。品質には十分留意しておりますが、万一不良や部品の欠品等がありましたら、弊社カスタマーサービスにご連絡ください。本商品は安全性を重視して製造されていますが、組み立てやご使用の際は取扱説明書に従ってください。

本機は健康な人を対象とした商品です。心臓病、高血圧症、糖尿病、呼吸器疾患、変形性関節病、リウマチ、痛風、妊娠中の方、リハビリ目的とする方は、必ず医師とご相談の上使用して下さい。

※事故や体調不良を起こす原因となります。

危険！：感電しないために、使用後あるいは清掃前には必ず電源を抜いてください。

1. ご使用前には取扱説明書をよく読み、必ず従ってください。
 2. 動悸や息切れ、胸の痛みを感じたら、すぐにトレーニングを止め、医師にご相談ください。
 3. 使用後は電源スイッチを切り、使用時間以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。また移動や部品交換の際には必ずプラグを抜いてください。
 4. 電源コードやプラグが破損したままのご使用は絶対にしないでください。また、正常に作動しない、破損している場合も同様、ご使用を避けてください。
 5. 電源コードを引っ張って移動させないでください。また、コードは暖炉や暑い場所には近づけないでください。
 6. 水平な場所で使用し、屋外や水のある場所ではご使用を避けてください。
 7. 所定の部品以外の物のご使用はお止めください。
 8. トレーニング中はお子様やペットを近づけないでください。
 9. ハンデのある方がご使用になる場合は、医師の許可を得て、どなたかに付き添っていただいでください。
 10. どなたかがご使用中は、手や足をトレッドミルの下に入れしないでください。
 11. 走行ベルトに立ったまま走行ベルトを動かさないでください。スロースピードでトレーニングを始め、スロースピードで終了してください。
 - a-電源を切るときは、最初に本体電源スイッチを切り、その後電源プラグを抜いてください。
 - b-取扱説明書に記載されている使用方法でご使用ください。
 - c-ウォームアップとクールダウンに 5~10 分の時間をとってください。これにより脈拍が徐々に増加あるいは減少できますので、心臓や筋肉に負担をかけずにすみませう。
 - d-トレーニング中に呼吸を止めないでください。呼吸することはトレーニングの度合いに合った脈拍を維持できます。
 - e-トレーニングはゆっくり始め、徐々にスピードを上げ、距離を伸ばしてください。
 - f-トレーニングのときは運動に適した服装で靴を履き、ダブついた服装はさけてください。
 - g-裸足やストッキング、スリッパでのトレーニングはお止めください。
 - h-走行板を上げる、あるいは移動してのメンテナンスの際には十分ご注意ください。
- 警告**：特に 35 才以上の方の健康維持のため、トレーニングを始める前には必ず医師にご相談ください。トレーニングの前には取扱説明書をよくお読みください。
本商品をご使用中のケガや商品への損傷における責任は負いかねませう。

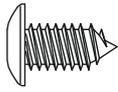
各部の名称

仕様

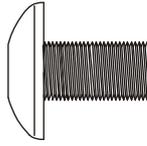
- モーター馬力：1.75HP
- スピード：0.3～10 km/h
- 走行面：450×1400mm
- 使用体重制限：約 130kg



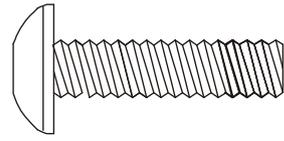
小物部品リスト



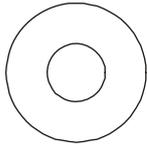
#47. 3.5 × 12 m/m
スクリーボルト (24pcs)



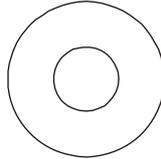
#63. 5/16" × 3/4"
六角ボルト (22pcs)



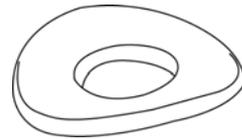
#80. 3/8" × 2-1/4"
六角ボルト (4pcs)



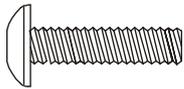
#64. 5/16" × 18 × 1.5T
ワッシャー (6pcs)



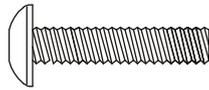
#81. 3/8" × 19
× 1.5T
ワッシャー (4pcs)



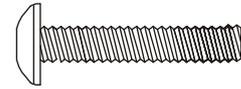
#65. 5/16" × 23 ×
1.5T
湾曲ワッシャー (16pcs)



#76. M5 × 25m/m
プラスボルト (2pcs)



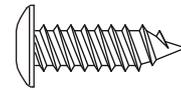
#77. M5 × 35m/m
プラスボルト (2pcs)



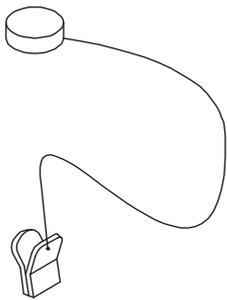
#79. 5/16" × 2"
プラスボルト (2pcs)



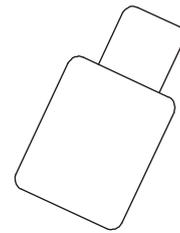
#101. 5/16" × 3-1/2"
六角ボルト (2pcs)



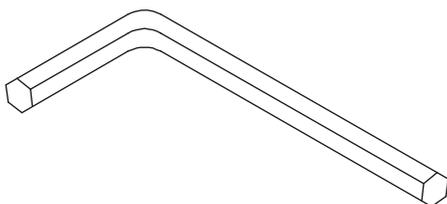
#173. 3.5 × 18 m/m
スクリーボルト (4pcs)



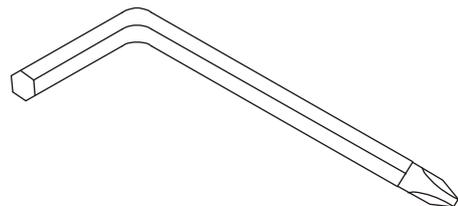
#28. 安全キー (1pc)



#68. シリコン (1pc)



#67. M6 六角レンチ (1pc)

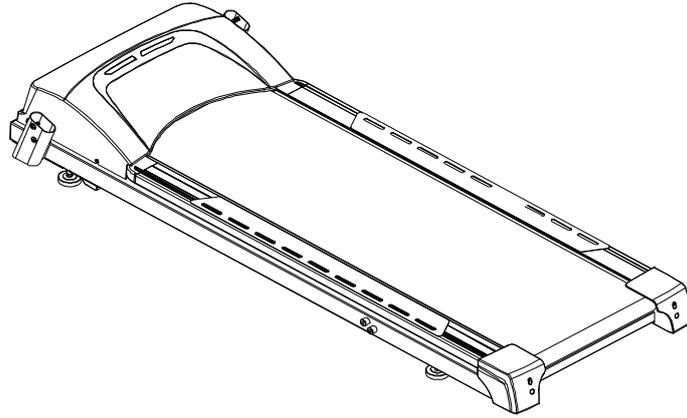


#66. M5
六角レンチ& プラスドライバー
(1pc)

組立方法

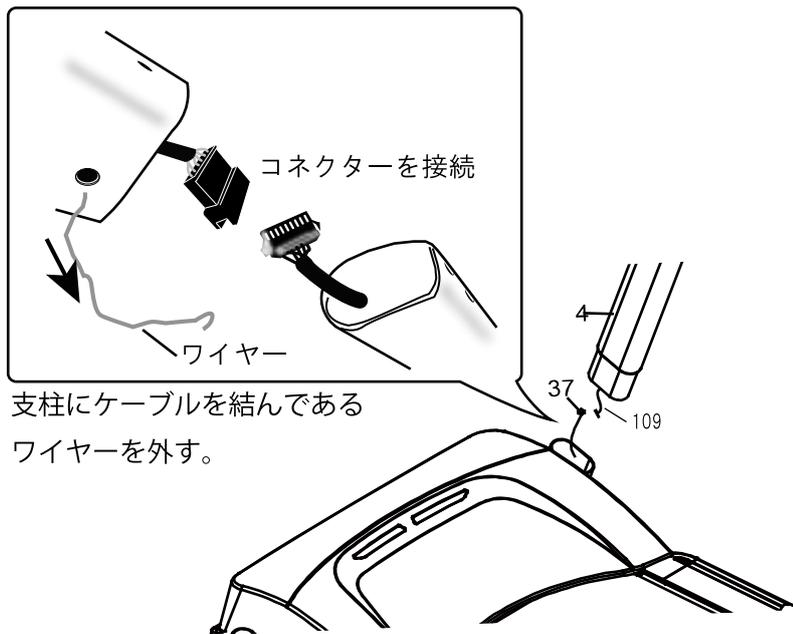
Step1.

トレッドミルを箱から取り出し、水平なところに置いてください。



Step 2.

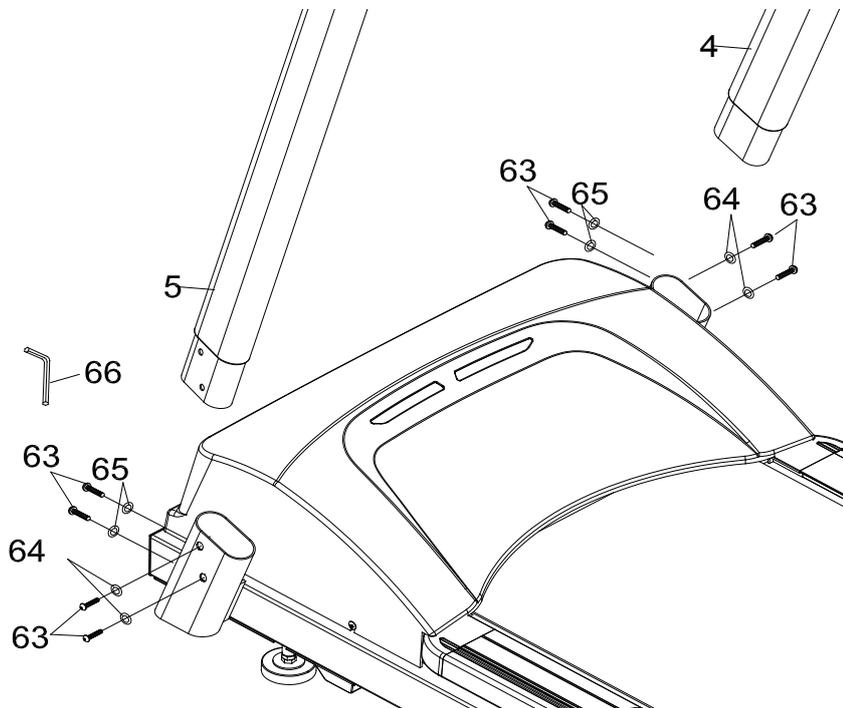
右の支柱(4)の下側に留められているワイヤーを外して、本体側から出しているケーブル(37)と支柱内にあるケーブル(109)と接続します。



Step 3.

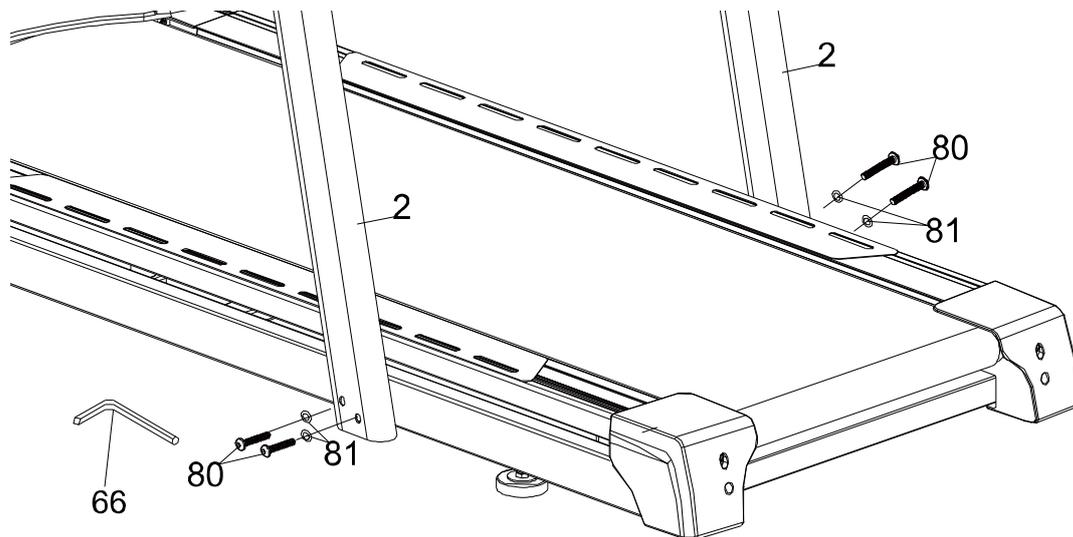
図のように、右支柱（4）と左支柱（5）をメインフレームに差し込み、ボルト（63）とワッシャー（前側 65、側面 63）を六角レンチ（66）で取り付けてください。

注意）右支柱のケーブルを挟まない様に気を付けて下さい。



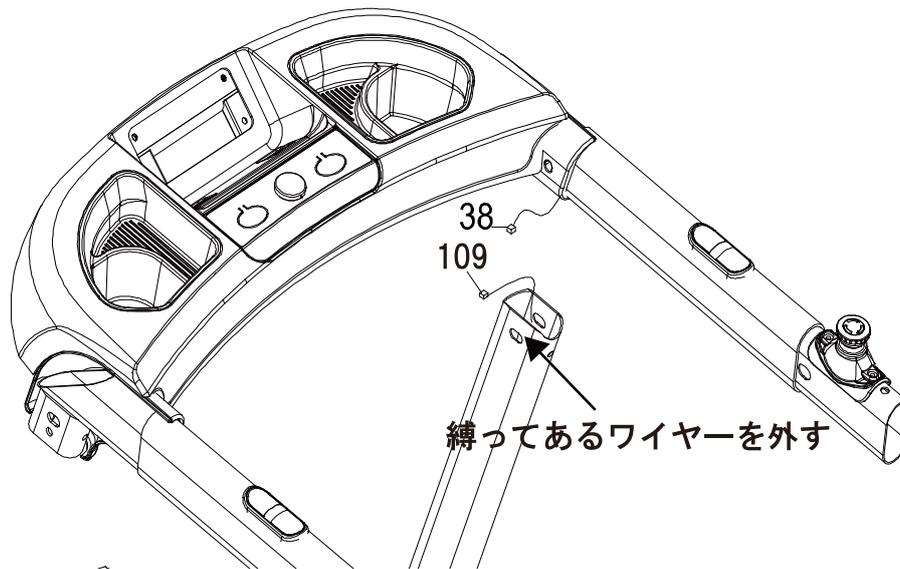
Step 4.

図のように、後支柱（2）を所定のボルト（80）とワッシャー（81）を六角レンチ（66）で取り付けます。



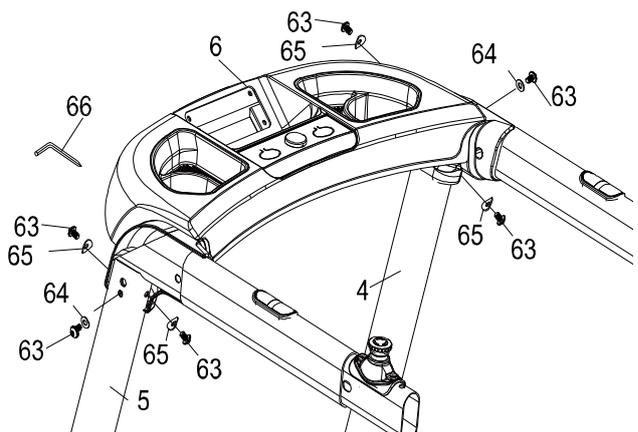
Step 5.

右の支柱(4)の上側に留められているワイヤーを外して、ケーブル(109)とコントロールパネルから出ているケーブル(38)を接続します。

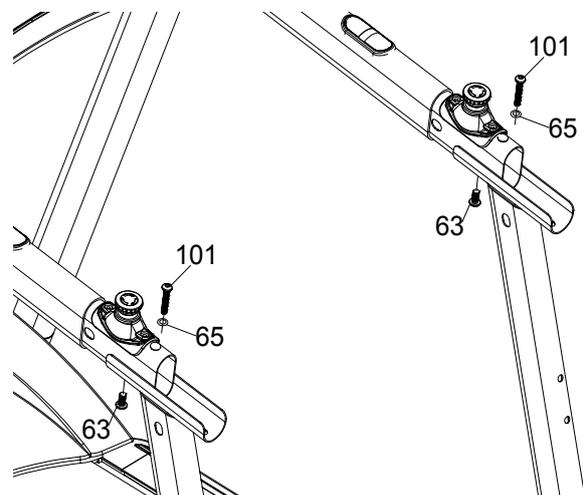


Step 6.

図のように、コントロールパネルをボルト(63)とワッシャー(64・65)で左右の支柱(4)(5)に取り付けます。6角レンチ(66)を使用してください。



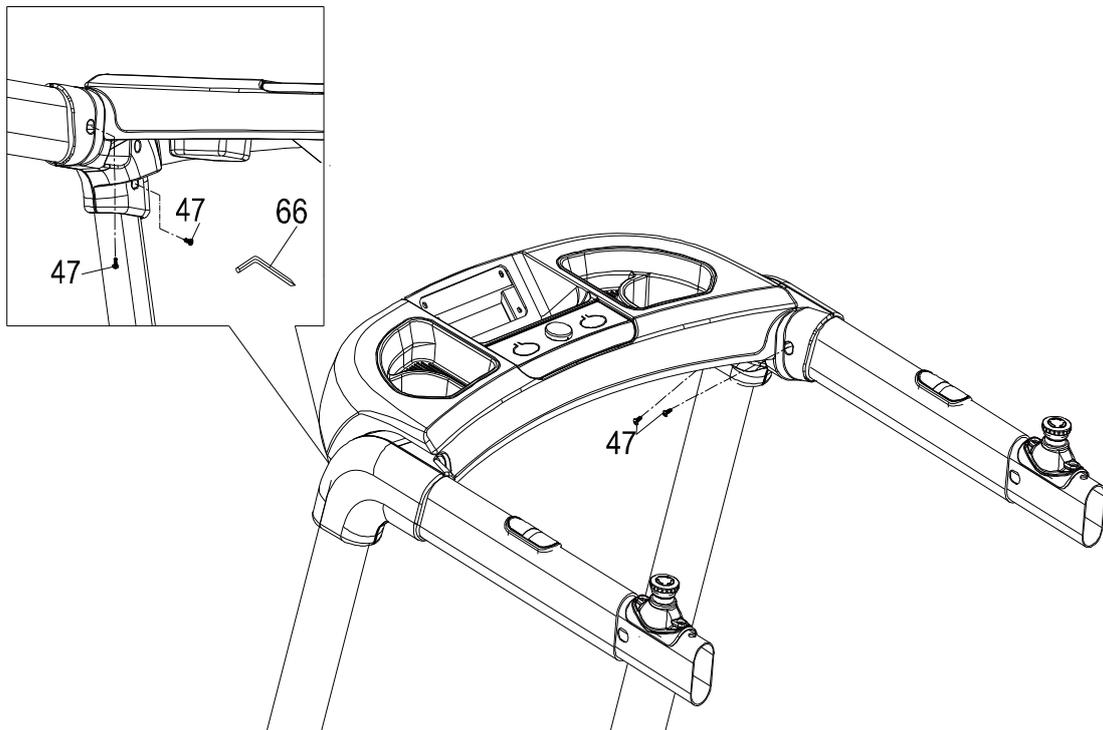
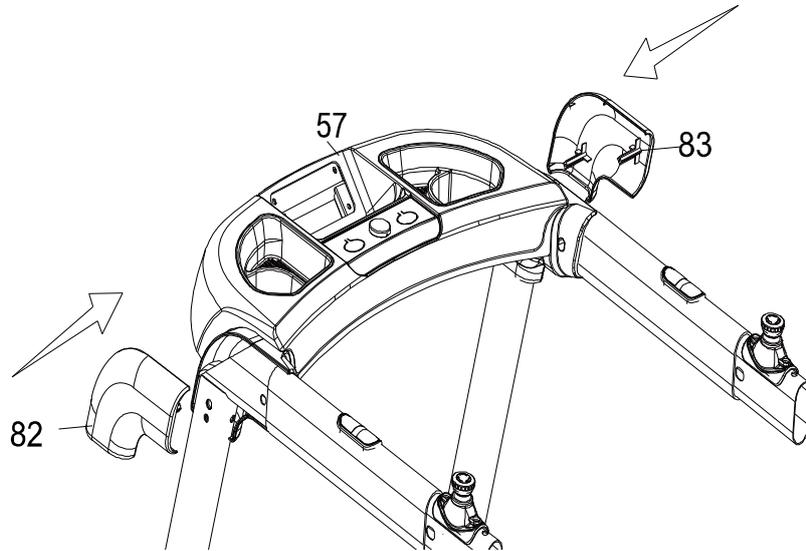
後支柱(2)にも取り付けます。



Step 7.

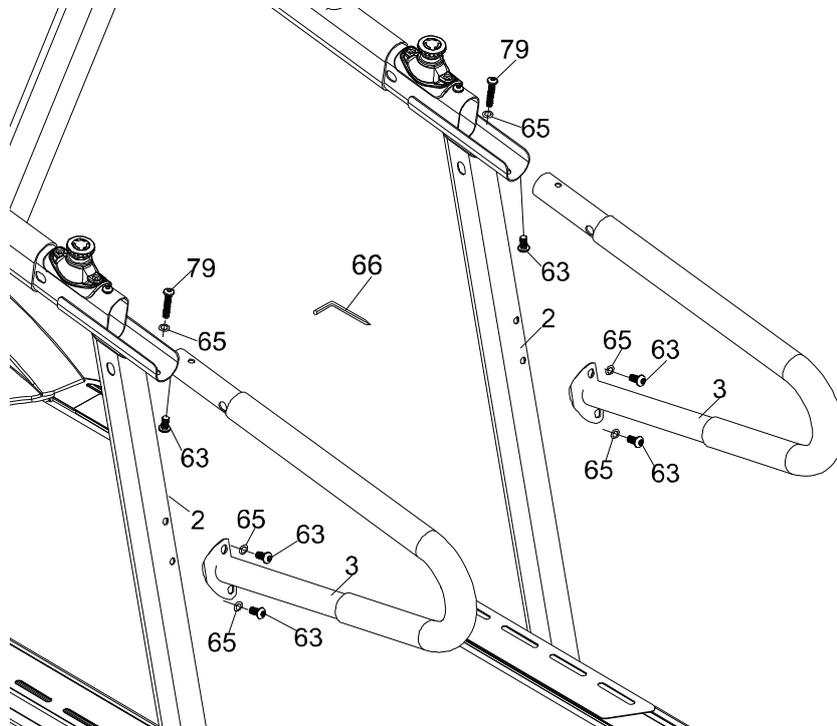
左右のハンドルバーカバー（82）（83）をネジ（47）でハンドルに取り付けてください。

六角レンチ（66）を使用してください。

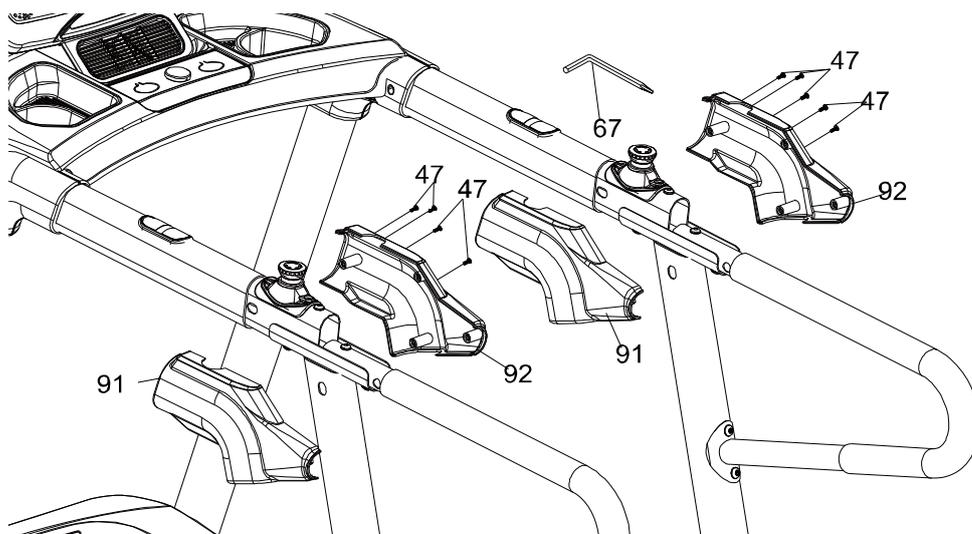


Step 8.

図のように、後のハンドルバー（3）を所定のボルトとワッシャーで取り付けます。
6角レンチ（66）を使用してください。



図のように、後方に左右のハンドルバーカバー（91）（92）を所定のネジとワッシャーで取り付けます。6角レンチ（67）を使用してください。



Step 9.

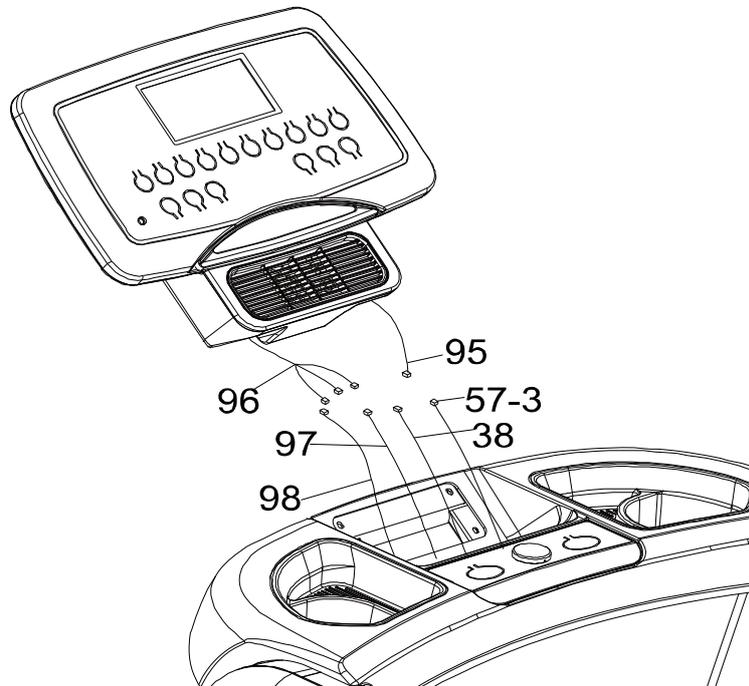
図のように、パネルとコンソールのコードを接続してください。

コード (38) とコード (95)

コード (57-3) とコード (96 (2Pin))

コード (97) とコード (96 (4Pin))

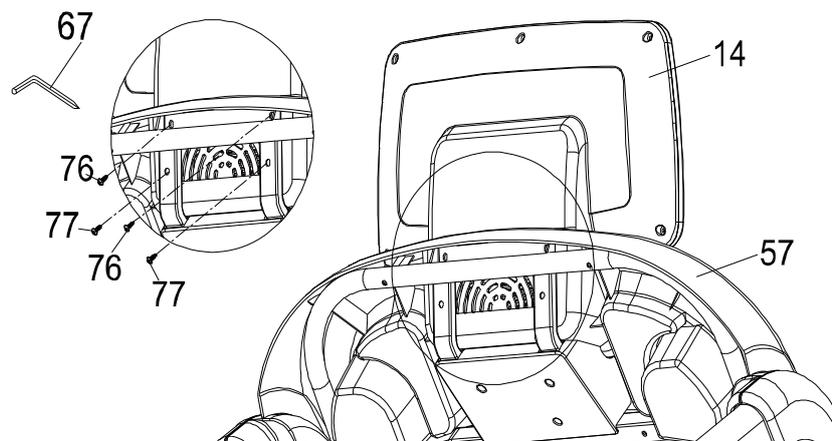
コード (98) とコード (96 (3Pin))



Step 10.

図のように、パネル (14) をコンソールにはめ込み、ボルト (76・77) で留めてください。

6角レンチ (67) を使用してください。



注意：パネルをセットする際にコードを挟み込まないよう注意しながらネジを締めてください。

コンピューター操作方法



スタート :

運動時間と目的カロリーを入力後（次ページ参照）、スタートボタンを押すと、画面に3, 2, 1と数字が表示され、最小スピードの0.3 kmから走行ベルトが動き始めます。

ストップ : ストップボタンを押すと、徐々にスピードが減少して走行ベルトが止まります。

決定 : 時間、距離、スピード、脈拍等の数値を確定するために押します。

選ぶ : 時間、距離、スピード、脈拍等を選択できます。

アップ : スピードを速めます。設定の際は時間や脈拍の数値を上げます。

ダウン : スピードを遅くする。

パルスランプ :

ハンドグリップを握り、感知するとハートマークが点滅して脈拍数が表示されます。
(設定した脈拍数値を超えて20秒経つと「ピッピッ」という音と共にカウントダウン後自動停止します)

ワンタッチスピードボタン :

お好みのスピードを設定できます。セットした後も運動をしながらクイックボタンを押し決定を押すことでスピードを変更できます。

ご使用前の注意

スピードは徐々に早めたり、遅くしたりしてください。左右のハンドルにある緊急停止ボタンが作動するかをご確認ください。また、安全キーが作動するかもご確認ください。これらが正常に作動しないときは絶対にご使用にならないでください。

基本的な操作: まずはじめにコンセントを挿して、電源を入れます。

- A> 『決定』 ボタンを押し、『アップ/ダウン』 ボタンで運動時間設定をしてください。事前にセットされている時間は10分間です。(設定範囲10~99分)
設定時間に到達すると自動的に停止します。
- B> 『決定』 ボタンを押し、『アップ/ダウン』 ボタンで脈拍を設定してください。(設定範囲60~150) あまり無理しない数値を入力して下さい。体力に不安がある場合は必ず医師にご相談下さい。
- C> 『スタート』 ボタンで運動を開始します。『アップ/ダウン』 ボタン、あるいはクイックボタンでスピードを調節してください。ワンタッチスピードボタンでスピードを調節するときは、希望のスピードのボタンを押し、その後『決定』 ボタンを押ししてください。この『決定』 ボタンを押さないと作動しません。もし、足がついていけないなどの理由で緊急に走行ベルトを止めたいときには、下記の方法で行ってください。

緊急停止する方法

機能その1: 左右のハンドルの緊急停止ボタンを押します。

機能その2: 安全キーを外します。

※お願い

緊急停止ボタンはあくまでも非常用です。日常での運動を終了する際は必ずスピードの『おそい』 ボタンを押してスピードを最低スピードまで落としてから終了させてください。

ハンドパルス:

ハンドパルスを握ると脈拍が表示されます。安全のために、設定した最高脈拍数値に達し、ビーブ音が約20秒鳴り続くと自動的に停止するように前もって設定されていますが、これ以上に設定する場合は、上記の<基本的な操作: B>を参考にして設定して下さい。

注意) 脈拍はあくまでも簡易的な数値です。

エラーメッセージ:

- ① 「——」は、安全キーが正しくセットされていないときに表示されます。安全キーがきちんとセットされているか、あるいは左右のハンドルの緊急停止ボタンが解除されているかをご確認ください。
- ② 「LS1」は、スピードを感知していないときに表示されます。ご購入されたお店へお問い合わせください。
- ③ 走行中にスピードが落ちていくときは直ちに走行ベルトの裏側にシリコンを噴霧して下さい。(P18参照)。また走行ベルトのシリコン不足からの電圧不足によるスピードダウンも考えられます。販売店へご連絡下さい。

走行ベルトの調整方法

はじめに

走行ベルトは人の体重がかかりながらも回る最も重要な部分です。
ベルトが滑りやすいように日ごろのメンテナンスが必ず必要となります。
購入時は走行ベルトが固いため、早ければ約1週間ぐらいで調整が必要となる場合もございます。

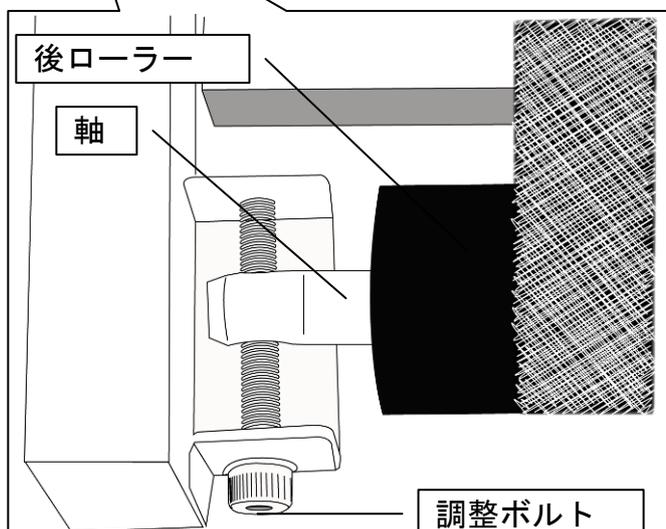
ベルト調整が必要となる症状

1. 走行ベルトが左右どちらかに寄っている。
2. 歩行中（走行中）に左右どちらかの足を前に着地した時に走行ベルトだけ止まるような感じがする。



1. 走行ベルトが調整できる仕組み

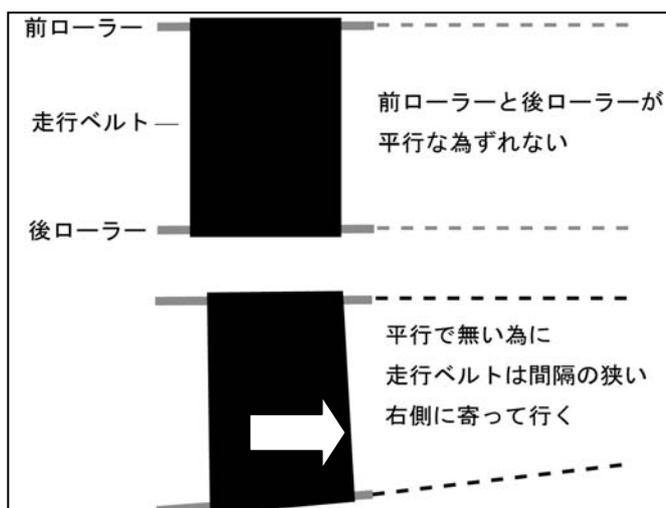
ルームランナーの後方の左右にあるカバーのネジを外すと、右図のように後ローラーの左右の軸に対して直角に調整ボルトが付いています。
このボルトを回すことにより、後ローラーの軸にもネジ山があり、前後するような仕組みです。



前ローラーと後ローラーは上から見て平行でなければなりません。

どちらかの間隔がずれた場合は右図のようになります。

その際は寄った側の調整ボルトを回して調整が必要です。

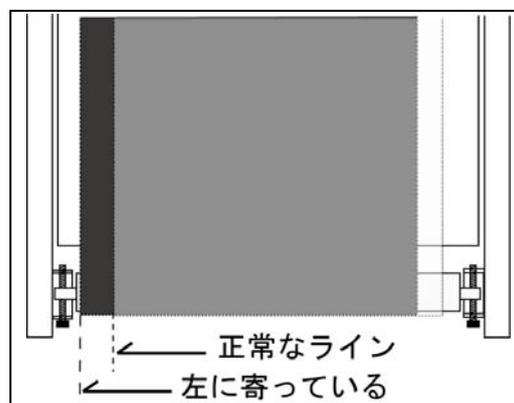


2.走行ベルトの調整の仕組み

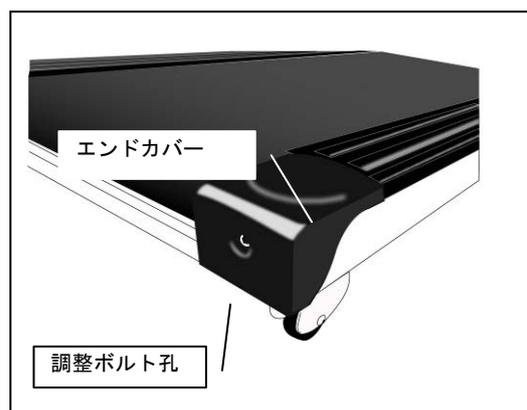
走行ベルトがずれる原因として考えられる原因

- 使用者の効き足の蹴る力
- 走行ベルトの伸び（消耗）
- 設置面の傾き

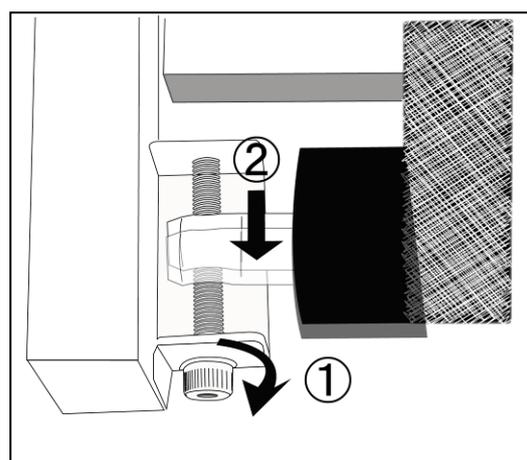
右図のように走行ベルトが左に寄っている場合の調整方法を説明します。



前ページで説明したように前後ローラーが平行で無い為、左に寄った場合は左側の後カバーの孔に、付属の六角レンチを使って、調整ボルトを回して調整します。右に寄った場合は右の調整ボルトを回して調整します。



右図はカバー内部の仕組みを分かりやすくするためのものです。調整ボルト①を六角レンチで右に回すとローラーの軸②が後に下がります。左に回せば軸は前に移動します。

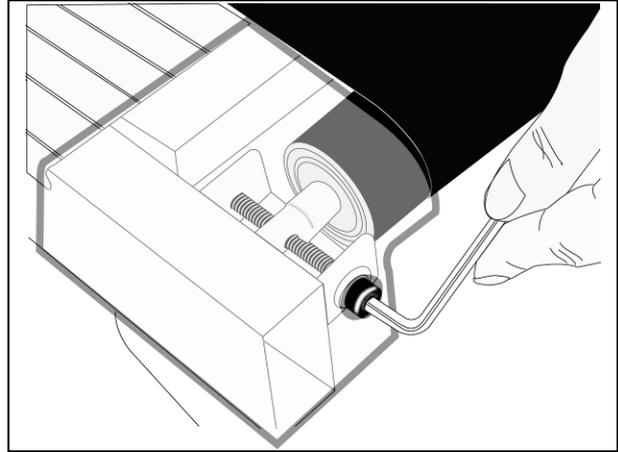


3. 走行ベルトの調整方法

1. 最初にルームランナーの電源を入れて走行ベルトを時速 2km/h ぐらいで動かしながら調整してください。

1 度に回す目安として六角レンチは 90 度ぐらいが目安です。

あくまでも 90 度と言うのは目安ですので実際に走行ベルトが移動するのを目で見ながら微調整してください。



2. おおよそ走行ベルトが中心に寄ったら、時速 6km/h ぐらいに速度を上げて、人が乗らない状態で微調整を続けます。

微調整の際に逆側に寄りすぎた場合は調整ボルトを少し左回しにしたりして調整します。

3. 最後に実際に走行面に乗って、時速 4~6km/h ぐらいで走行ベルトを回し、通常よりも少し強めに踏ん張るように踏み込みながら歩行してください。

走行ベルトだけが滑るような感じでしたら左右の調整ボルトを同じ回転だけ右回ししてください。ちょうど滑らなくなったところが適正の走行ベルトの張りです。



その後、通常通りの走行をしてベルトのズレを確認してください。

異常なければ走行ベルトの調整は完了です。

まだズレる場合はズレた方の調整ボルトを少しずつ右まわしして中心によるように調整して下さい。

4. メンテナンス

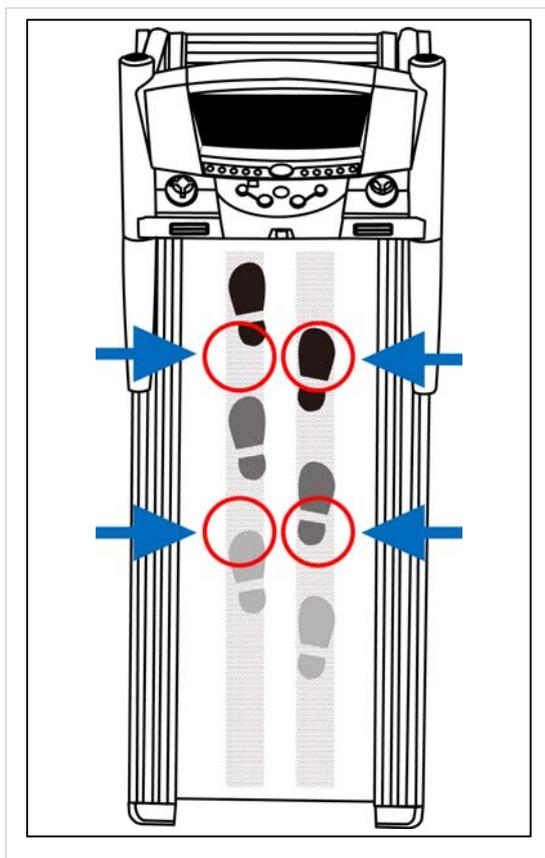
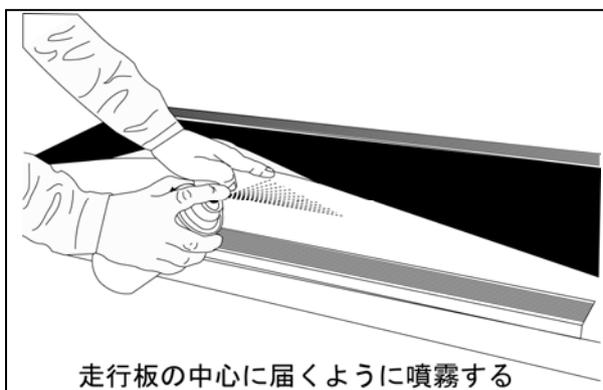
シリコンスプレーの噴霧の方法

シリコンスプレーは必ず必要です！

走行ベルトは常に人の体重を乗せて走行板の上を滑っています。シリコンスプレーを噴霧することで走行ベルトの潤滑をしやすくしており、モーターやモーターを回すコンピューター基盤等に負担が掛からないように助ける役目もしています。家庭用ルームランナーは3～5日ぐらい毎で噴霧してください。長期間超使用しなかった場合もシリコンが乾燥していますので、必ずご使用前に噴霧して頂きますようお願いいたします。

日ごろのお手入れ

1. 走行ベルトと走行板の間に手を入れて、手の甲でベルトを持ち上げるようにします。
2. 走行ベルトの足が乗る辺りの走行板にシリコンスプレーが届くように左右から噴霧します。(右図赤丸部分) 走行板の全長の前から後まで移動させながら噴霧してください。
3. その後、低速スピードで人が乗った状態で走行ベルトを回して、足の裏で伸ばすように3回転ほど回します。



6ヶ月ごとのお手入れ

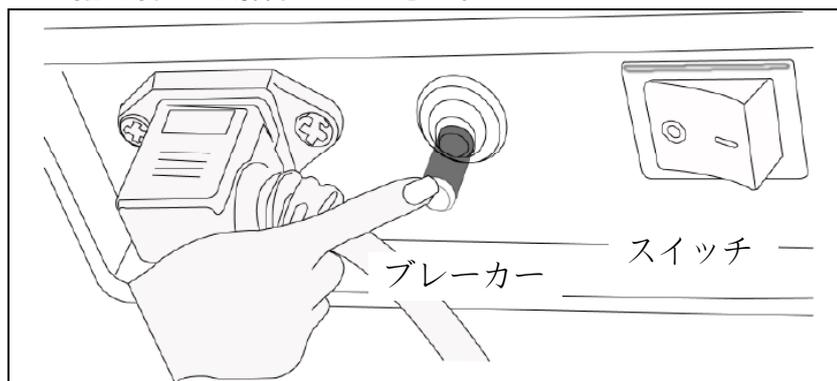
- モーターカバー内の清掃
コンセントを必ず抜きます。右図のようにモーターカバーのネジを外してカバーを開けて、カバー内部のホコリなどを取り除いてください。
- 走行板の拭き取り清掃
走行ベルトを緩めて、走行板を中性洗剤を含ませた雑巾などできれいにシリコン、ホコリ等を拭き取ってください。拭き取り後、走行板にシリコンを噴霧してから走行ベルトを調整します。(P17 参照)

トラブルシューティング

電源が入らない場合

下記を確認してください。

1. 本体前面にある電源スイッチは入っていますか？
入っていない場合はスイッチをI側へ入れてください。
2. ブレーカーを確認してください。
ブレーカーがとんだ時は下記の絵のようにとびでます。
指で押して解除して下さい。



ブレーカーがとぶ原因は走行ベルトが回っている時に摩擦抵抗が大きくなり過電流が流れて基盤保護のためにとぶのがほとんどです。下記のチェックを試してみてください。

はじめに通常の運動するようなポジションでマシンの上に立ち、電源を入れずに足の力のみで走行ベルトを蹴るようにして動かして次の2点をチェックしてください。



- ① 走行ベルトはスムーズに回りますか？
 - 回らない場合はモーターの故障、ローラーの故障、走行ベルトの消耗などが考えられます。すぐに購入店までご連絡下さい。
- ② 異音はありませんか？
 - モーター、ローラーのベアリングの故障、モーターの駆動をローラーに伝えるためのタイミングベルトの消耗などが考えられます。モーターカバーを開けて音の出る場所を出来るだけ特定してみてください。

上記に当てはまる場合は購入店へご連絡下さい。

トラブルシューティング

コントロールパネルが点かない場合

1. 前ページの電源スイッチとブレーカーをご確認ください。
2. 安全キーはセットしてありますか？セットしてないと動きません。



上記で異常が無い場合はモーター基盤等の電氣的な故障が考えられます。

ご購入店にご連絡下さい。

脈拍が出にくい、出ない場合

中性洗剤を布に軽く付けのぼしてハンドパルスセンサーを拭いてください。
手が乾燥すると感知しにくいですので霧吹き等で手のひらを湿らせて下さい。
それでも直らない場合はご購入店にご連絡下さい。

異音がする場合

1. 本体のどこから音がするのかをチェックする。
例：前のカバー付近、モーター音、ローラー付近、横のステップ等
2. 音は走行ベルトを回して定期的にしますか？それとも不定期ですか？
定期的な場合は走行ベルトが1周するまでに何回音がするのかをチェックしてください。
不定期的な場合はどうゆう状況で鳴るのかを出来るだけチェックしてみてください。

上記の結果をご購入店にご連絡下さい。

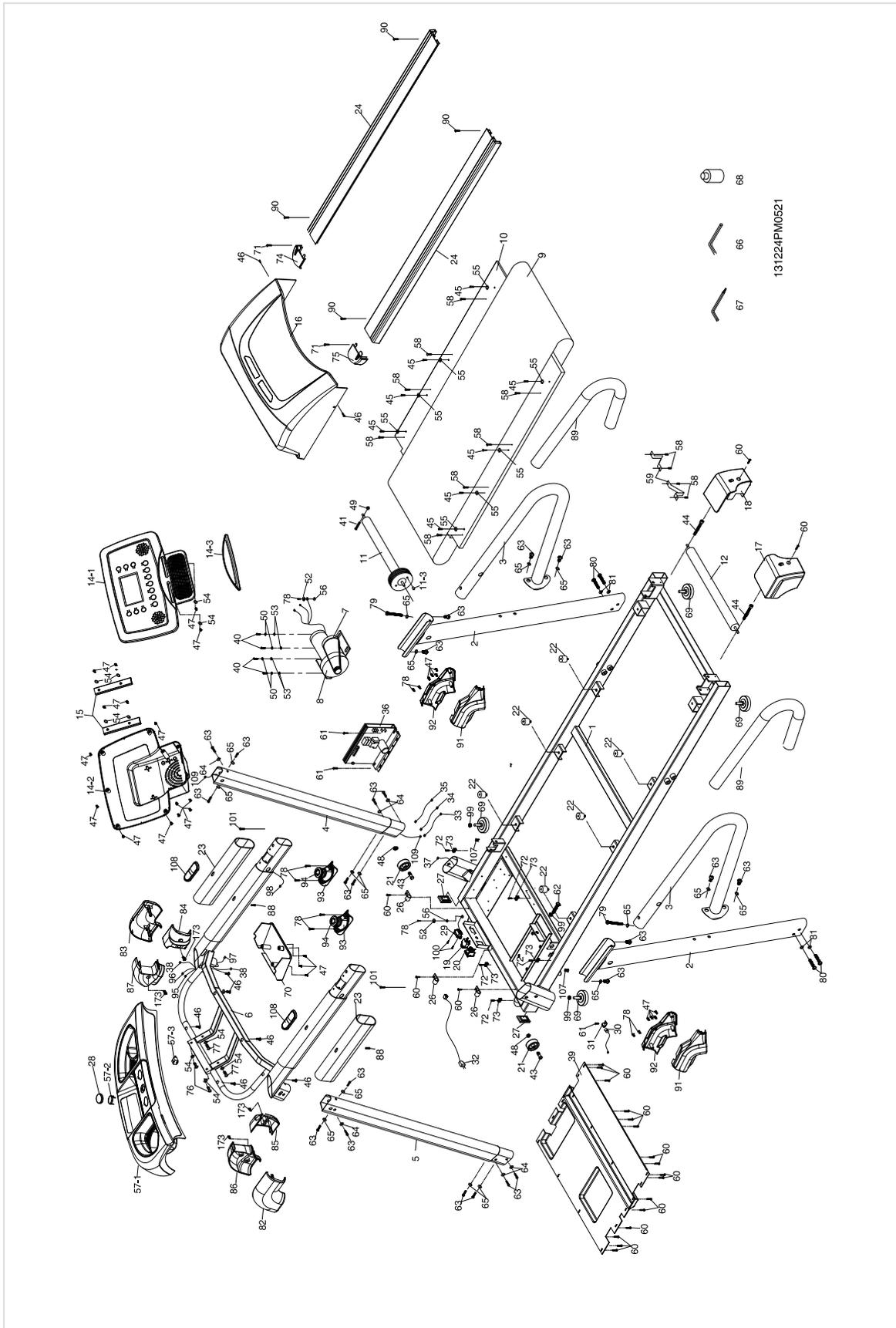
トラブルシューティング

症状	確認箇所	原因・対処方法
<p>電源が入らない</p> <p>1. モニター画面は点かない</p> <p>2. モニター画面は点く</p>	<p>1. 取扱説明書を読んで電源、ブレーカーの確認をする。 建物の電源の確認：コンセントに電気が流れているか確認 取扱説明書を読んで安全キーの取付け位置の確認をする。 取扱説明書の組立方法を見ながら接続箇所を確認する。 取扱説明書の操作手順の確認</p> <p>2. 下記の走行ベルトが動かない項目へ</p>	<p>1) 本体電源スイッチ近くに有るブレーカーのピンを指で押し込む。取説の組立手順を読みながら、配線の接続部分を一旦外して、もう一度取り付けてみる。</p> <p>2) 電源コードの破損や断線の場合は販売店に連絡。</p> <p>3) 緊急ストップボタンが押した状態になっていないか確認する。</p>
<p>1. 走行ベルトが動かない。</p> <p>2. ベルトが速くなったり遅くなったりする。</p> <p>3. 運動中にベルトが徐々に遅くなる。</p>	<p>1) A. 取扱説明書を読んで操作手順の確認 B. モニターのボタン等の破損の確認：破損の場合は購入店へ連絡</p> <p>2) A. コンセントの容量不足。 B. 走行ベルトの消耗（シリコン不足） C. 走行ベルトの張り調整不足</p> <p>3) 走行ベルトへのシリコン不足から基盤等へ過電流が流れモーター基盤等の故障。</p>	<p>1) B. ボタン等の破損の場合は販売店へ連絡。</p> <p>2) . A. 現在使用している建物側のコンセントのブレーカーとは違う別の回路のコンセントに繋いで症状を見てみる。 B. 走行ベルトの交換 (寿命の目安1~3年、使用頻度が少なくてもベルトが硬化してきます。) C. .</p> <p>3) A. 電源の容量不足 B. 過電流で基盤等がショートした場合は部品交換の為、販売店へ連絡</p>
<p>異音がする</p>	<p>1) 異音がする箇所を特定する。 例) モーター、前後ローラー、走行ベルトなど。 A. 前の方から異音 B. 後ろの方から異音</p>	<p>A. モーター内部の損傷、前ローラーのベアリングの消耗による片減り、タイミングベルトの消耗、走行ベルトのずれ B. 後ローラーのベアリングの消耗による片減り</p> <p>A. B とも販売店に連絡</p>
<p>手すり等に触れると電気が走る</p>	<p>A. ナイロン系、ポリエステル系のトレーニング服を着ての運動 B. 走行ベルトの消耗 C. アースが接続されていない</p>	<p>A. 静電気が起きやすい服装で運動しない。 B. 走行ベルトの交換 C. アースは必ず接続してください。</p> <p>B. 'C' の場合販売店に連絡</p>
<p>走行ベルトが止まる</p>	<p>1) モーターと走行ベルトと一緒に止まる A. モーター基盤、モニター基盤、モーター等の故障。 2) . 走行ベルトのみ止まる A. タイミングベルトの弛み。 B. 走行ベルトの弛み 3) 初めは動くが5秒程度で止まる</p>	<p>1) A. シリコン不足からの過電流等による故障。販売店へ連絡</p> <p>2) A. タイミングベルト交換。販売店へ連絡 B. 走行ベルトの調整をする</p> <p>3) スピードセンサーの故障</p>

トラブルシューティング

症状	確認箇所	原因・対策方法
走行ベルトがずれる	P15 参照	走行ベルトの調整、設置面の傾き
トレーニングスタート時、終了時にベルトが鳴る。	ベルトと足、もしくはベルトと歩行デッキの間で発生する「ギョッ」と言う音がする。P15-P18 参照	故障では有りません。 ベルトの滑りを良くする事や、ベルトの寿命を延ばす為に走行板と走行ベルトの間にシリコンを噴霧する。
スピード調節が出来ない	表面のシール、ボタン等の破損はないか確認	新しいスイッチに交換する。 販売店に連絡
エラー表示する。	エラー表示の番号	取扱説明書のエラーの確認。 販売店に連絡。
本体下に黒い粉が落ちる。	トレーニングによる走行ベルト表面の消耗やトレーニングシューズ靴底の消耗。	マシンの付近を定期的に掃除機をかける。
スタートするとラジオなどに雑音が入る。	モーターなどから発生する電氣的なノイズの影響を受ける。	電源プラグを本機と異なるコンセントに接続する。 ラジオ等の機器を本機から遠ざける。
脈拍が表示されない。	1). グリップセンサーの場合。 A. 左右のセンサー部を手で掴んでいますか。 B. 手のひらが乾燥していませんか。 2). ハートレートセンサーの場合。 A. 衣服の上からセンサーをしていませんか。 B. お肌が乾燥していませんか。	1). グリップセンサーの場合。 A. 左右のセンサー部を手で掴む。 B. 手のひらを少量霧吹き等で湿らせる。 2). ハートレートセンサーの場合。 A. 直接肌にセンサーベルトを当てるようにする。 B. センサーベルト内側を少量霧吹き等で湿らせてセンサーベルトを肌に付ける。

見取り図



パーツナンバー

NO.	DESCRIPTION	Q' TY
1	メインフレーム	1
2	後支柱 (左右)	2
3	後ハンドグリップ	2
4	右支柱	1
5	左支柱	1
6	モニターフレーム	1
7	ドライブベルト	1
8	モーターブラケット	1
9	走行ベルト	1
10	走行板	1
11	フロントローラー	1
11~3	マグネット	1
12	後ローラー	1
14	モニター	1
14~1	モニタートップカバー	1
14~2	モニターボトムカバー	1
14~3	ブックラック	1
15	コンソールサポート	2
16	モータートップカバー	1
17	リアアジャストベース (L)	1
18	リアアジャストベース (R)	1
19	ブレーカー	1
20	On/Off スイッチ	1
21	フレームベースフロントベース	2
22	クッションラバー	6
23	ハンドグリップフォーム	2
24	フットレール	2
26	モーターカバービス受け	2
27	30 × 60m/m スペーサーエンドキャップ	2
28	800m/m_セーフティーキー	1
29	パワーソケット	1
30	1000m/m センサーケーブル	1
31	センサーラック	1
32	パワーコード	1
33	300mm_配線 (白)	1
34	300mm_配線 (黒)	1
35	100m/m_配線 (黒)	1
36	モーター基盤	1
37	1750m/m_コンピューターケーブル (支柱の下側)	1
38	700m/m_コンピューターケーブル (パネル側)	1
39	モーターボトムカバー	1
40	3/8" × 1"_モーター固定ボルト	4
41	M8 × 60m/m_前ローラー固定ボルト (右)	1
43	5/16" × 1-1/2" _移動ローラー用ボルト	2
44	M8 × 80mm_後ろローラー調整ボルト	2
45	M8 × 25m/m_サイドステップ用ボルト	8
46	5 × 16m/m_タッピングスクリュー	8
47	3.5 × 12m/m_シートメタルスクリュー	30
48	5/16" × 7T_ナイロンナット	2
49	M8 × 7T_ナイロンナット	1
50	3/8" × 2T_ワッシャー	4
52	M5_ワッシャー	2

パーツナンバー

NO.	DESCRIPTION	Q' TY
53	Ø10 × 25 × 2T_フラットワッシャー	4
54	Ø5 × Ø13 × 1.0T_フラットワッシャー	10
55	Ø25 × Ø20 × Ø16 × Ø5 × 4.5H × 1.1T_凹面ワッシャー	8
56	M5_スターワッシャー	2
57	ドリンクホルダー	1
57~1	ドリンクホルダー	1
57~2	マグネットプレート	1
57~3	100m/m_セーフティスイッチ	1
58	4 × 12m/m_スクリューボルト	12
59	ベルトガイド	2
60	5 × 16m/m_タッピングスクリュー	21
61	5 × 19m/m_タッピングスクリュー	3
62	3/8" × 2"_ボルト	1
63	5/16" × 3/4"_ボルト	22
64	8 × 18 × 1.5T_フラットワッシャー	6
65	8 × 23 × 1.5T_カーブワッシャー	16
66	Combination M5_ドライバー付L型レンチ	1
67	M6 (66 × 88)_L型レンチ	1
68	シリコンスプレー	1
69	後脚	4
70	ドリンクホルダーカバー	1
71	3.5 × 20m/m_メタルスクリュー	2
72	3.5 × 16m/m_タッピングスクリュー	5
73	配線止め	5
74	フットレールキャップ(R)	1
75	フットレールキャップ(L)	1
76	M5 × 25m/m_スクリューボルト	2
77	M5 × 35m/m_スクリューボルト	2
78	M5 × 12m/m_スクリューボルト	10
79	5/16" × 2"_ソケットボルト	2
80	3/8" × 2-1/4"_ソケットボルト	4
81	1 × 19 × 1.5T_フラットワッシャー	4
82	アウターハンドルバーカバー (L)	1
83	アウターハンドルバーカバー (R)	1
84	インナーハンドルバーカバー (R)	1
85	インナーハンドルバーカバー (L)	1
86	トップインナーハンドルバーカバー (L)	1
87	トップインナーハンドルバーカバー (R)	1
88	4 × 80m/m_ボルト	2
89	リアハンドグリップ	2
90	4 × 19m/m_ボルト	4
91	リアハンドルバーカバー (L)	2
92	リアハンドルバーカバー (R)	2
93	ストップボタンブラケット	2
94	ストップボタン	2
95	350m/m_コンピューターケーブル (上)	1
96	350m/m_ハンドパルスケーブル (上)	1
97	800m/m_ハンドパルスケーブル (下)	1
98	1100m/m_ストップボタンケーブル (下)	1
99	3/8" × 7T_ナット	3
100	3 × 10m/m_スクリューボルト	2
101	5/16" × 3/1/2"_ボルト	2
107	M5_ナットクリップ	2
108	ハンドパルスセンサー	2
109	1200m/mm/m_コンピューターケーブル (支柱)	
173	3.5 × 18m/m_シートメタルスクリュー	2

仕 様

名 称	ヘルスジョガー・リハビリ
品 番	HJ-80
電源	AC100V 15A 50/60Hz
傾斜角度	約0.6度 一定
設定速度	約0.3~10km/h
時間	0分00秒~99分59秒
距離	0.00km~99.9km
消費カロリー	0~999kcal
緊急停止用安全キー	マグネット式
走行面寸法	(約)幅450×長1400mm
外形寸法	使用時：(約)幅775×高1355×長1905mm
本体重量	77.5kg
最大使用体重	約130kgまで
使用環境温湿度	+10~+35℃ 30~80%RH
仕様モーター	DC1.75HP
付属品	工具(六角レンチ)、安全キー、シリコンスプレー、 取扱説明書
原産国	中国

※お断りなく仕様変更する場合がございますのでご了承下さい。

保証規定 (準業務用)

- 1) 取扱説明書にしたがった正常な使用状態で、お買い上げ後 1 年以内に故障した場合には無償修理いたします。但し、消耗品は、有償となります。
- 2) 無償修理期間内に故障して修理を受ける場合は、商品に本書を添えてご購入店または(株)中旺ヘルスへ依頼または送付してください。
- 3) 無償修理期間内でも次の場合には有償修理になります。
使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷。
 1. お買い上げ後の落下などによる故障および損傷。
 2. 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害による故障および損傷。
 3. 本書の提示がない場合。
 4. 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
 5. 消耗品、* 走行ベルト、手すりラバー、モーターカバー、サイドステップ、タイミングベルト、エンドキャップ。
 6. 故障の原因が本製品以外に起因する場合。
 7. 車両や船舶等に設置された場合に起因する故障および損傷。
 8. 使用頻度が著しく高く、異常な状態でもそのまま使用した場合による故障および損傷。
準業務用途は一日の使用人数が約 5~10 人程度となります。
- 4) 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。
- 5) この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

品質保証書

このたびは、中旺ヘルス健康機器をお買い求めいただきありがとうございました。本機は厳重な検査を行い高品質を確保しております。しかし通常のご使用において万一、不具合が発生しましたときは、保証規定によりお買い上げ後、一年間は無償修理いたします。

※本機の保証は、日本国内での使用の場合に限ります。
This warranty is valid only in Japan.

※以下につきましては、必ず販売店にて、記入捺印していただってください。

品名：ヘルス ジョガー・リハビリ

形式：HJ-80

ご芳名：

ご住所：

Tel. ()

お買い上げ店名：

住所：

Tel. ()

お買い上げ年月日： 年 月 日

シリアル No.

中旺ヘルス製品についてのお問い合わせ・ご相談は「中旺ヘルスお客様相談センター」

本社：〒452-0011 愛知県清須市西枇杷島町城並 3 丁目 2-2

E-mail：hj@jp-chuoh.com

URL：www.jp-chuoh.com

東京営業所：TEL：(03)3835-4399

TEL：(052)501-2577

FAX：(052)501-2588